

龍谷大学 履修要項
2026年度 経営学部

最終更新日：2026年3月10日

2026年度入学生

経営学部

2026年度入学生 経営学部 メニュー

「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

>

- 経営学部経営学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」>

経営学部の教育理念・目的 >

経営学科の教育理念・目的 >

卒業認定・学位授与の方針 [学士 (経営学)] >

教育課程編成・実施の方針 >

- 経営学部商学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」>

経営学部の教育理念・目的 >

商学科の教育理念・目的 >

卒業認定・学位授与の方針 [学士 (経営学)] >

教育課程編成・実施の方針 >

経営学部の教育目的および履修方法

>

- 卒業要件単位 >

経営学科 卒業要件単位表 >

商学科 卒業要件単位表 >

- 先修制<学部専攻科目> >

- グレイドナンバー制 >

- 科目ナンバリング >

経営学科専攻科目の教育目的および履修方法

>

- 【1】経営学科の教育理念・目的 >

- 【2】カリキュラムの軸としての演習科目 >

- 【3】講義科目 >

- 【4】経営学科科目一覧 >

演習科目 >

必修科目 >

選択必修科目 >

経営 (マネジメント) コース専攻科目 >

会計コース専攻科目 >

経営情報コース専攻科目 >

特別講義 >

教職課程科目 >

両学科共通 >

- 【5】その他履修についての注意事項 >

- 【6】競争的ビジネスリーダー交流プログラム (サマーセッション) >

- 【7】大学院「競争的リーダー・コース」との接合 >

- 【8】経営学科生の大学院経営学研究科科目早期履修について >

1. 申込資格 >

2. 申込手続 >

3. 履修許可について >

4. 費用について >

5. 単位認定について >

- 【9】その他の教育課程・教育プログラム >

[経営学部「データサイエンス・AI応用基礎プログラム」>](#)

[RISE Programの単位認定>](#)

[留学期間中のゼミの取り扱い>](#)

- [【10】 演習論文提出要領（4年次生）>](#)

■ [演習論文を書くために>](#)

商学科専攻科目の教育目的および履修方法 [>](#)

- [【1】 経営学部商学科で学修・専攻すること>](#)

- [【2】 カリキュラム（教育課程）の全体像>](#)

[1. Startup Mindsetをもった人材育成のためのカリキュラム>](#)

[2. 講義型科目（理論）と実践型科目（実践）を往還するカリキュラム>](#)

[3. 学部共通コース（別の教育課程）への異動>](#)

- [【3】 商学科科目一覧>](#)

[1. 一覧表>](#)

[2. 一覧表の用語・見方>](#)

- [【4】 その他履修についての注意事項>](#)

- [【5】 その他の教育課程・教育プログラム>](#)

[経営学部「データサイエンス・AI応用基礎プログラム」>](#)

[RISE Programの単位認定>](#)

[留学期間中のゼミの取り扱い>](#)

大学院経営学研究科入学ガイド [>](#)

- [カリキュラム紹介>](#)

- [学内推薦入試について（11月・2月）>](#)

- [奨学金制度について>](#)

「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

経営学部経営学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

経営学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、経営学の理論を修得させることに加えて、実践的かつ実学的素養を身につけさせることを教育理念とする。また、激しい時代の変化に対応でき、社会から信頼される経営人を育成することを目的とする。

経営学科の教育理念・目的

建学の精神の理解を基礎にしつつ、チームの課題を発見し、コミュニケーション能力を構成する人間特性を使い分けながら、情報の分散的収集・共有・組み替えを行い、解決戦略を創発することを通じて、チームを変革しつつパフォーマンス向上に貢献できる競争的リーダーの育成を教育理念とする。

具体的には、下記の5つの能力を兼ね揃えた人間の養成を教育目的とする。

- ① 建学の精神を理解し、社会人として通用する素養と倫理観を持つ
- ② 解決しなければならないチームの課題を発見できる
- ③ 条件に応じて、コミュニケーション能力を構成する人間特性を使い分けすることができる
- ④ 戦略創発に必要な知識・情報を分散的に収集し、チーム内で共有することができる
- ⑤ 情報の組み替えによって課題解決のための戦略を創発できる

卒業認定・学位授与の方針 [学士 (経営学)]

経営学部および経営学科の「教育理念・目的」を達成するために、すべての学生一人ひとりに必要と考えられる培うべき基本的な資質・能力は、次の通りである。

〈経営学部経営学科の学生に保証する基本的な資質・能力〉

(注) ○教養教育科目により保証する資質・能力 ●専攻科目により保証する資質・能力

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解している。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●チームワークを通じて、経営学・会計学・経営情報学に関連する個別の専門的知識を幅広く多面的に修得している。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●適切な時間管理を行い、割り当てられたタスクを最後まで責任を持ってやりきり、設定された期限までに、個別の知識・情報を幅広く分散的に獲得できる。

	<ul style="list-style-type: none"> ●自己感情の管理に加えて、チームメンバーのモチベーションも考慮しつつ、発信力や傾聴力といった人間特性を場面に応じて組み替えながら、獲得された知識・情報をチームメンバーで共有することができる。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●ストレス耐性・実行力・発信力・傾聴力・論理性・共感性・応答力・創発力といった人間特性を状況に合わせて使いわけるコミュニケーション能力を身につけている。 ●属するチームが直面している解決しなければならない共通の課題を発見し、課題を解決するために、チームを通じて共有された個別の知識・情報を組み替えて新奇性のある戦略を創発することができる。 ●非認知能力を活用することで、個別の専門知識を組み替えながら、組織における課題を発見し、解決のための戦略を創発できる能力を身につけている。
⑤：社会で即時に活躍できる実践的な競争的リーダーとしての資質・能力の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ●学科と大学院とが有機的にブリッジされたプログラムを活用して、専門的知識を実社会で即時に運用できる競争的リーダーを目指す。

また、学部共通コースの学生に保証する基本的な資質・能力は以下のとおりである。

〈国際関係コースの学生に保証する基本的な資質・能力〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の国・地域に関する幅広い知識と外国語による一定のコミュニケーション能力を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するための能力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけている。

〈英語コミュニケーションコースの学生に保証する基本的な資質・能力〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●英語圏での日常生活に支障のない英語の技能を身につけている。 ●英語圏の言語や文化を理解し、国際的視野を備えている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●異なる文化や価値観を理解した上で、英語で他者と意見交換できる柔軟な思考力・表現力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●自らもしくはチームで目標を定め、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。

〈スポーツサイエンスコースの学生に保証する基本的な資質・能力〉

①：建学の精神の具現化	
-------------	--

②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●現代のスポーツ関連領域で提起される諸問題について、的確に評価・分析するために、社会科学とスポーツ科学の知識や方法論とを合わせた複合的な視点を身につけている。 ●客観的な評価・分析を行える基礎的スキルを身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●現代社会におけるスポーツ諸事象について学際的・多面的視点から理解・探求する思考力や判断力を身につけている。 ●導き出した見解を文章等にまとめ、発表し、議論することができる。 ●健康づくりや競技力向上のための指導といったスポーツの現場に必要なコミュニケーション能力やマネジメント能力の基礎的知識と応用力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ諸事象を人間・社会への洞察にもとづいて理解し、スポーツを社会の発展のために役立てようとする意欲や態度を身につけている。

〈環境サイエンスコースの学生に保証する基本的な資質・能力〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題発生のメカニズムを文献と現場から理解し、人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会を構築するための知識を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するための能力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけている。

教育課程編成・実施の方針

経営学部経営学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境・支援体制を整備する。

〈経営学部経営学科の教育内容〉

(注) ○教養教育科目による教育内容 ●専攻科目による教育内容

①：建学の精神の具現化	<ul style="list-style-type: none"> ○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の「仏教の思想」科目(「仏教の思想A」・「仏教の思想B」)を全学必修科目として開講する。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の言語科目(英語及び英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系)を開講し、基幹科目を設置する。

	<ul style="list-style-type: none"> ●状況に合わせたコミュニケーション能力の切替を演習で学ぶために、そこで扱う個別の専門知識を幅広く事前に獲得することを目指し、経営学・会計学・経営情報学に関する専門知識を幅広く必修科目と選択必修科目を科目として第1セメスターと第2セメスターに配置する。
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の言語科目(英語及び英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系)を開講する。 ●入学までの受動的思考習慣を改め、どのチームに所属するのかを主体的に選択できる行動習慣を促すために、1年次第1セメスターに「ゼミ探求」として、各教員の基礎演習の説明ないし運用方法を自ら聴講し、能動的・主体的なゼミ選択のための情報交換を行うクラスを設置する。 ●モチベーション管理・時間管理・場面に応じた人間特性の切替を学ぶゼミ選択を主体的に行えることを促すために、演習科目担当者全員が自らの演習で必要とされる専門知識を獲得するための「推奨履修科目一覧」を入学ガイダンス時に配布し、学生自らの演習の主体的選択が、講義科目のオーダーメイド的なカリキュラム編成となる仕組みを導入する。
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ストレス耐性・実行力・発信力・傾聴力・論理性・共感性・応答力・創発力といった人間特性を状況に合わせて使いわけながら、チームの課題を発見する力・戦略をチームワークを通じて創発する力を涵養できるようになるために、週1回の演習科目に加えて、「特別基礎演習」、「特別演習Ⅰ」、「管理者体験演習」を選択可能にすることで、週2回の演習科目を履修できる。 ●所属するチームの課題を発見し、解決のための戦略を構築する能力を実際のチーム活動から体験的に学ぶために、多様なメンバーとチームを組んで競争的ビジネスリーダーに必要な能力に関する報告を実際の企業経営幹部層に対して行う「競争的ビジネスリーダー交流プログラム」科目を1年次から開講する。 ●企業組織のマネジメントに不可欠な非認知能力を獲得するために、まず、学生による主体的ゼミ選択を重視し、1セメの「ゼミ探求」、2セメ3セメの「基礎演習」、「特別基礎演習」をキャリア啓発科目に、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「特別演習Ⅰ」、「管理者体験演習」をキャリア形成科目に指定している。
<p>⑤：社会で即時に活躍できる実践的な競争的リーダーとしての資質・能力の獲得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●社会で即時に活躍できる実践的な競争的リーダーになることを目指して、早期履修制度を前提に、学科科目「管理者体験演習」と大学院の「競争的リーダーコース」とが有機的に接合されたプログラムを設置する。

また、専攻科目として、学部共通コース科目を置き、コース所属学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、体系的な教育課程を編成・展開する。

〈国際関係コースの教育内容〉

<p>①：建学の精神の具現化</p>	
--------------------	--

②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を身につけるために、第4セメスターに必修科目(国際関係論Ⅰ, 地域研究入門)と選択必修科目(コース指定外国語)を開講する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して, 自ら課題を発見し, その解決に向けて探究し, 成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して, 国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するために, 選択科目B群(経済・経営・法・政策学部からの提供科目)を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●異なる価値や文化に関心を抱き, それらを積極的に理解しようとする態度を身につけるために, 地域研究科目(主として選択科目A群)を開講する。

〈英語コミュニケーションコースの教育内容〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●日常生活に支障のない英語の技能を身につけるために, 「Oral CommunicationⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」「WritingⅠ・Ⅱ」を必修科目として, また, 「Communicative GrammarⅠ・Ⅱ」等を選択科目として配置する。 ●英語圏の言語や文化を, 幅広い視野から理解し考えるために, 文化的背景を学修できる科目・異文化理解を促す科目を配置する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して, 自ら課題を発見し, その解決に向けて探究し, 成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●柔軟な思考力・表現力を身につけるために, 「Process Writing」「Critical Essay」「SeminarⅠ・Ⅱ」等の科目を配置する。それらの科目担当者はネイティブスピーカーを中心に構成する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●自らもしくはチームで目標を定め, 主体的に行動するために, 「Public Speaking」「Intercultural Discussion」「Global Understanding in English」「海外研修」「SeminarⅠ・Ⅱ」「卒業研究」を配置する。

〈スポーツサイエンスコースの教育内容〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	●人文・社会科学系および自然科学系に大別されるスポーツ科学を学ぶ上での基礎となる科目を開講する。 ●特定のテーマに基づき学ぶ少人数科目を開講する。 ●スポーツにおける諸事象を客観的に分析・評価するための科目を開講する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して, 自ら課題を発見し, その解決に向けて探究し, 成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	●スポーツ科学の個別領域での課題や, その解決策を探る思考力・判断力を育成する科目を開講する。 ●課題の解決や解明に取り組む姿勢や態度, 方法論を学ぶために実習を含む科目を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	●主体性と協働性を身につけるために, 演習, キャリア入門(スポーツサイエンスコース), スポーツキャリア実習(キャリア形成科目)を開講する。

〈環境サイエンスコースの教育内容〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題の現状および解決方法に関する知識を身につけるため、第四セメスターから、必修科目の「環境学A」および人文・社会科学系と自然科学系科目からなる座学の選択必修科目を開講する。 ●環境問題を解決する技能を身につけるため、「シミュレーション技法」および「環境実践研究」などの実習科目を開講する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するため「環境学B」「環境管理論Ⅰ・Ⅱ」などの科目を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけるため「生態学A・B」「環境フィールドワーク」などの科目を開講する。

経営学部商学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」

経営学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、経営学の理論を修得させることに加えて、実践的かつ実学的素養を身につけさせることを教育理念とする。また、激しい時代の変化に対応でき、社会から信頼される経営人を育成することを目的とする。

商学科の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、事業創造とマーケティングの知識と幅広い教養を身につけ、実践的な学びを通じて社会の諸課題を実証的に把握し、市場や地域社会において継続的に新たな価値を創造し提供することのできる人間を育成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針 [学士(経営学)]

経営学部および商学科の「教育理念・目的」を達成するために、すべての学生一人ひとりに必要と考えられる培うべき基本的な資質・能力は、次の通りである。

〈経営学部商学科の学生に保証する基本的な資質・能力〉

(注) ○教養教育科目により保証する資質・能力 ●専攻科目により保証する資質・能力

①：建学の精神の具現化	○建学の精神の意義について理解している。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につけている。

	<ul style="list-style-type: none"> ●事業創造やマーケティングに関連する知識を幅広く多面的に身につけている。 ●歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。 ●実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求できる。 ●専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深めることができる。 ●社会の諸課題の解決につながる新しいアイデアを主体的に生み出し、かたちにすることができる。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●価値の創造と提供のために、多様な人びとのアイデアを受容できる。 ●社会の諸課題の解決に向けた仕組みを、主体的に構想できる。 ●市場や地域社会と共に創造した価値を共有できる。

また、学部共通コースの学生に保証する基本的な資質・能力は以下のとおりである。

〈国際関係コースの学生に保証する基本的な資質・能力〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の国・地域に関する幅広い知識と外国語による一定のコミュニケーション能力を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するための能力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけている。

〈英語コミュニケーションコースの学生に保証する基本的な資質・能力〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●英語圏での日常生活に支障のない英語の技能を身につけている。 ●英語圏の言語や文化を理解し、国際的視野を備えている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●異なる文化や価値観を理解した上で、英語で他者と意見交換できる柔軟な思考力・表現力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●自らもしくはチームで目標を定め、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。

〈スポーツサイエンスコースの学生に保証する基本的な資質・能力〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●現代のスポーツ関連領域で提起される諸問題について、的確に評価・分析するために、社会科学とスポーツ科学の知識や方法論とを合わせた複合的な視点を身につけている。 ●客観的な評価・分析を行える基礎的スキルを身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●現代社会におけるスポーツ諸事象について学際的・多面的視点から理解・探求する思考力や判断力を身につけている ●導き出した見解を文章等にまとめ、発表し、議論することができる。 ●健康づくりや競技力向上のための指導といったスポーツの現場に必要なコミュニケーション能力やマネジメント能力の基礎的知識と応用力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ諸事象を人間・社会への洞察にもとづいて理解し、スポーツを社会の発展のために役立てようとする意欲や態度を身につけている。

〈環境サイエンスコースの学生に保証する基本的な資質・能力〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題発生メカニズムを文献と現場から理解し、人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会を構築するための知識を身につけている。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するための能力を身につけている。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●人と自然とが共存する資源循環型の持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけている。

教育課程編成・実施の方針

経営学部商学科の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」に明示したすべての学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境・支援体制を整備する。

〈経営学部商学科の教育内容〉

(注) ○教養教育科目による教育内容 ●専攻科目による教育内容

①：建学の精神の具現化	<ul style="list-style-type: none"> ○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の「仏教の思想」科目(「仏教の思想A」・「仏教の思想B」)を全学必修科目として開講する。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の言語科目(英語及び英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 ○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当(第1・第2セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・

	<p>スポーツ科学系)を開講し、基幹科目を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多様な人びととの対話を通じて、共創の基盤となるコミュニケーション能力を身につけるために、必修科目として「アカデミックスキルズA」、履修指導科目として「情報リテラシー」、「フレッシュャーズゼミ」、「アカデミックスキルズB」及び「キャリア&ライフマネジメント」を開講する。 ●事業創造やマーケティングに関連する知識を幅広く多面的に身につけるために、必修科目として「ビジネスケーススタディA」及び「ビジネスケーススタディB」、履修指導科目として「ベーシックマーケティング」、「ベーシックアカウンティングI」を開講する。 ●歴史的経緯や地域の多様性を踏まえ、社会の諸課題を実証的に把握する技能を身につけるために、必修科目として「社会調査入門」を開講する。
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の言語科目(英語及び英語以外の複数の外国語科目)を開講する。 ○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4セメスター配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系)を開講する。 ●実践と知識を往還しながら思考・判断することで、自ら社会の諸課題を発見・探求できるようにするために、履修指導科目として「社会調査実践」を開講する。 ●専門的知識と幅広い教養を活かして、多角的に市場や地域社会について理解を深めるために、段階的・系統的に学べるよう選択科目として「マーケティング論」及び「地域企業論」などを開講する。 ●社会の諸課題の解決につながる新しいアイデアを主体的に生み出し、かたちにすることができるようにするために、履修指導科目として「プロジェクト入門」を開講する。
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●価値の創造と提供のために、多様な人びとのアイデアを受容できるように、2年次(第4セメスター)より演習科目を開講する。 ●社会の諸課題の解決に向けた仕組みを、主体的に構想できるようにするために、「演習I」及び「演習II(演習研究含む)」を開講する。 ●市場や地域社会と共に創造した価値を共有できるようにするために、「演習II」に演習研究を位置づける。 ●生涯を通じた持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するための力を身につけるために、「ワークルール入門」及び「キャリア&ライフマネジメント」などのキャリア啓発やキャリア形成にかかる科目を開講する。

また、専攻科目として、学部共通コース科目を置き、コース所属学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、体系的な教育課程を編成・展開する。

〈国際関係コースの教育内容〉

<p>①：建学の精神の具現化</p>	
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を身につけるために、第4セメスターに必修科目(国際関係論I, 地域研究入門)と選択必修科目(コース指定外国語)を開講する。

<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上</p>	<p>●幅広い知識と一定のコミュニケーション能力を活用して、国際社会が直面する諸問題について多角的に思考・判断・考察するために、選択科目B群(経済・経営・法・政策学部からの提供科目)を開講する。</p>
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上</p>	<p>●異なる価値や文化に関心を抱き、それらを積極的に理解しようとする態度を身につけるために、地域研究科目(主として選択科目A群)を開講する。</p>

〈英語コミュニケーションコースの教育内容〉

<p>①：建学の精神の具現化</p>	
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<p>●日常生活に支障のない英語の技能を身につけるために、「Oral Communication I A・I B・II A・II B」「Writing I・II」を必修科目として、また、「Communicative Grammar I・II」等を選択科目として配置する。</p> <p>●英語圏の言語や文化を、幅広い視野から理解し考えるために、文化的背景を学修できる科目・異文化理解を促す科目を配置する。</p>
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上</p>	<p>●柔軟な思考力・表現力を身につけるために、「Process Writing」「Critical Essay」「Seminar I・II」等の科目を配置する。それらの科目担当者はネイティブスピーカーを中心に構成する。</p>
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上</p>	<p>●自らもしくはチームで目標を定め、主体的に行動するために、「Public Speaking」「Intercultural Discussion」「Global Understanding in English」「海外研修」「Seminar I・II」「卒業研究」を配置する。</p>

〈スポーツサイエンスコースの教育内容〉

<p>①：建学の精神の具現化</p>	
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<p>●人文・社会科学系および自然科学系に大別されるスポーツ科学を学ぶ上での基礎となる科目を開講する。</p> <p>●特定のテーマに基づき学ぶ少数科目を開講する。</p> <p>●スポーツにおける諸事象を客観的に分析・評価するための科目を開講する。</p>
<p>③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上</p>	<p>●スポーツ科学の個別領域での課題や、その解決策を探る思考力・判断力を育成する科目を開講する。</p> <p>●課題の解決や解明に取り組む姿勢や態度、方法論を学ぶために実習を含む科目を開講する。</p>
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上</p>	<p>●主体性と協働性を身につけるために、演習、キャリア入門(スポーツサイエンスコース)、スポーツキャリア実習(キャリア形成科目)を開講する。</p>

〈環境サイエンスコースの教育内容〉

①：建学の精神の具現化	
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ●環境問題の現状および解決方法に関する知識を身につけるため、第四セメスターから、必修科目の「環境学A」および人文・社会科学系と自然科学系科目からなる座学の選択必修科目を開講する。 ●環境問題を解決する技能を身につけるため、「シミュレーション技法」および「環境実践研究」などの実習科目を開講する。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●自然、社会、人文に関する幅広い知識・技能を活用して、持続可能な社会の実現のために環境学の視点から必要な技術や制度について思考・判断・考察するため「環境学B」「環境管理論Ⅰ・Ⅱ」などの科目を開講する。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な社会の実現のために多様な人々と協働しながら主体的に行動する態度を身につけるため「生態学A・B」「環境フィールドワーク」などの科目を開講する。

経営学部の教育目的および履修方法

卒業要件単位

経営学科 卒業要件単位表

区分	科目	経営学科	国際関係 コース	英語 コミュニケー ション コース	スポーツ サイエンス コース	環境 サイエンス コース	
教養教育科目	「仏教の思想A」, 「仏教の思想B」	4	4	4	4	4	
	必修外国語	12	12	12	12	12	
	教養科目	人文科学系科目	2	2	2	2	2
		社会科学系科目	2	2	2	2	2
		自然科学系科目	2	2	2	2	2
選択科目	10	10	10	18	10		
専攻科目	学科必修科目	2	2	2	2	2	
	学科選択必修科目	8	8	8	8	8	
	学科選択科目	71	23	23	23	23	
	学部共通コース科目	—	48	48	40	48	
フリーゾーン		12	12	12	12	12	
単位数総計		125	125	125	125	125	

商学科 卒業要件単位表

区分	科目	商学科	国際関係 コース	英語 コミュニケー ション コース	スポーツ サイエンス コース	環境 サイエンス コース	
教養教育科目	「仏教の思想A」, 「仏教の思想B」	4	4	4	4	4	
	必修外国語	12	12	12	12	12	
	教養科目	人文科学系科目	2	2	2	2	2
		社会科学系科目	2	2	2	2	2
		自然科学系科目	2	2	2	2	2
選択科目	10	10	10	18	10		
専攻科目	学科必修科目	8	8	8	8	8	
	学科選択科目	61	25	25	25	25	
	学部共通コース科目	—	48	48	40	48	
フリーゾーン		24	12	12	12	12	
単位数総計		125	125	125	125	125	

先修制<学部専攻科目>

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修の要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。先修制が設定されている科目は次のとおりです。

<経営学科>

科目名	履修の要件となる授業科目および単位数
経営データ分析Ⅲ	経営データ分析Ⅱ 2単位
プログラミングⅡ	プログラミングⅠ 2単位
競争的ビジネスリーダー交流プログラムB（海外実践）	競争的ビジネスリーダー交流プログラムB（国内学習） 2単位
演習Ⅱ	演習Ⅰ※ 4単位
上級外国語A	初修外国語Ⅰ 2単位
上級外国語B	
上級外国語C	
上級外国語D	

※演習Ⅰの成績が70点以上の学生のみ、演習Ⅱを継続できる（演習Ⅰの成績が60～69点の場合、演習Ⅰの単位は認定されるが、演習Ⅱを継続して履修することはできない）。

※編入生については、履修期間（5セメスターのみ）の観点から、演習Ⅱの履修にあたって演習Ⅰ（2単位）を先修条件とする。

<商学科>

科目名	履修の要件となる授業科目および単位数
演習Ⅱ（演習研究含む）	演習Ⅰ 4単位
上級外国語A	初修外国語Ⅰ 2単位
上級外国語B	
上級外国語C	
上級外国語D	

※演習Ⅰの成績が70点以上の学生のみ、演習Ⅱを継続できる（演習Ⅰの成績が60～69点の場合、演習Ⅰの単位は認定されるが、演習Ⅱを継続して履修することはできない）。

※編入生については、履修期間（5セメスターのみ）の観点から、演習Ⅱの履修にあたって演習Ⅰ（2単位）を先修条件とする。

グレイドナンバー制

経営学部で開設される授業科目には、グレイドナンバーが付されています。これは、科目のレベルを簡明に表示したものです。学修計画の設計にあたって、これを参考にしてください。

	基礎	→				応用
グレイド	100	200	300	400	500	

科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。経営学部のナンバリングコードは次のとおりです。各科目の難易度や学問分野を参考に履修してください。

① 開講学部	② 開講学科	③ 分野	④ 難易度	⑤ 通し番号
B	01	MAN	2	10
経営学部	01: 経営学科 02: 商学科	MAN: 経営学 CME: 商学 CAE: キャリア教育	1: 1年次配当科目 2: 2年次配当科目 3: 3年次配当科目 4: 4年次配当科目	

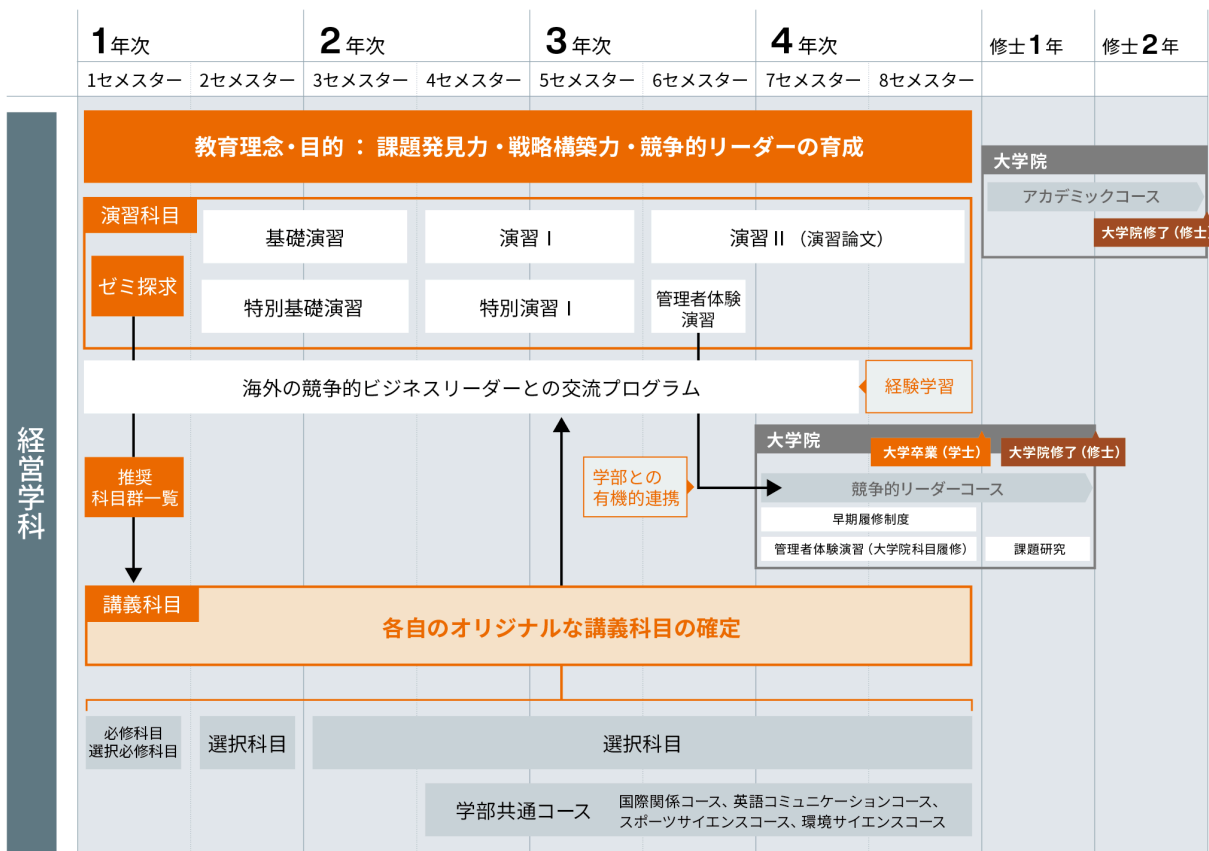
経営学科専攻科目の教育目的および履修方法

【1】経営学科の教育理念・目的

経営学科の教育理念・目的は、建学の精神の理解を基礎にしつつ、チームの課題を発見し、コミュニケーション能力を構成する人間特性を使い分けながら、情報の分散的収集・共有・組み替えを行い、解決戦略を創発できる競争的リーダーの育成にあります。

ここでいう「コミュニケーション能力を構成する人間特性」とは、ストレス耐性、実行力、発信力、傾聴力、論理性、共感性、応答力、創造力などを指し、社会人基礎力（経済産業省）、競争力人材（経団連）、非認知能力（文部科学省）などとも表現されるものです。これらの人間特性が求められるのは、新奇性のある戦略を構築するための条件（情報の分散的収集・共有・組替）を満たすのに必要だからです。

上記の能力獲得を目指して、経営学科では以下のようにカリキュラムが体系的に組み立てられています。



【2】カリキュラムの軸としての演習科目

専攻科目とは、経営学・会計学・経営情報学における個別領域を専門的に学修する科目のことです。専攻科目は「演習科目（ゼミナール）」（以下、ゼミと表現）と「講義科目」とに分かれています。経営学科では、学科の教育理念・目的（上記の【1】）で提示している能力を、ゼミという場で、長期的かつ経験的・体験的学びを通じて養成する、と考えており、あくまで講義科目は、ゼミで使う個別の専門知識を獲得する場である、と位置づけています。

すなわち、ゼミが、メインの、能力を向上させる「経験学習」の場という位置付けで、講義科目は、ゼミで扱う専門知識を獲得してこるサブの位置付けとなっています。

経営学科では、ゼミ体系が「ゼミ探求」「基礎演習」「特別基礎演習」「演習Ⅰ」「特別演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「管理者体験演習」で構成されています。「特別基礎演習」「特別演習Ⅰ」は、別の名称になっていますが、それぞれ「基礎演習」と「演習Ⅰ」が週1回ではなく、週2回あるという意味です。競争的リーダーをゼミで養成するためには、チームメンバーのコミュニケーションの機会を量的にも質的にも増大させる必要があることを考慮して、週に複数回設置してあります。なお、すべての教員が週2回のゼミ方式を採用しているわけではなく、あ

くまで教員の選択制になっているので、詳しくは「ゼミ探求」や「演習ガイド」を通じて、学生自身で情報収集して、ゼミ選択をしてください。

本格的なゼミは第2セメスターの「基礎演習」から始まります。皆さんは、入学時にはまだ自分がどういう領域に興味があり、どういう教員がどういう仕組みでゼミを展開しているのかわかっていません。

そこで、まず、入学時の第1セメスターには「ゼミ探求」が開講されています。入学開始時から、学生は各教員のゼミに関する説明や1学年上の「基礎演習」に体験的に参加するなどして、自分の興味や各教員のやり方といった情報を主体的に獲得し、自分が集めた情報を通じて、自らが所属するゼミを主体的に選択する制度です。期間は4月から6月まで3ヶ月あり、やり方によってはすべてのゼミの説明を見て回ることもできます。7月からのゼミ選考へのエントリーは「ゼミ探求」を経ていることから、第1志望のゼミのみのエントリーとなります。

どういう講義科目を取得するべきなのかも、ゼミ選択を軸に決まってくる仕組みになっています。入学時に、各ゼミ担当者が自分のゼミで活動をするうえで必要な専門的な知識をどの講義で獲得することができるのかを書いた「推奨履修科目」の冊子が配布されます。

「ゼミ探求」でゼミ説明を聞いたり、ゼミを見学しながら入りたいゼミを特定していくと、その担当教員が推奨している科目群が決まりますから、学生がゼミを主体的に選ぶと、どの科目をどの順番で修得するべきなのかが判明することになります。皆さんの主体的・能動的なゼミ選択が、自分自身の、個々人のオリジナルな講義科目の取得体系を示してくれることになるわけです。

高校までの授業形態と最も異なり、最も大学らしいといえるものが少人数のゼミです。教員が一方向的に展開する「講義科目」とは正反対で、基本的には所属学生が中心になって、運営されるものです。ゼミは必修科目ではありませんが、ゼミに所属しなければ「演習論文」を執筆できません。ゼミを主体的に選んで履修することを、経営学科では積極的に推奨しています。

課題発見力・戦略構築力・競争的リーダーの育成という理念・目的は学科の共通コンセプトであるので、どのゼミに所属することになっても各教員はそれをある程度意識していますが、より直接的にゼミの展開・運営方式まで競争的リーダーに必要な人間特性の養成を意識しているゼミとして、「合同型演習」があります。

この合同型演習のみ、第6セメスターになった段階で、従来の「演習Ⅱ（8単位）」以外に「管理者体験演習」（2単位）が追加設定されます。このゼミは、第6セメスターの時期に、下級生ゼミの「管理者」として派遣され、下級生たちのチームワークがより活性化するような「管理活動（コーチング）」を担当教員と基礎演習生との間に入って展開することで、「管理者の視点」を、体験的・経験的学習を通じて獲得しようというものです。第6セメスターの最後に、体験的に展開した管理活動に関する報告会（合同報告会）を行います。合同型演習以外の「演習Ⅱ」に加えて、「管理者体験演習」が追加的単位として付与されます。

また、管理者体験演習は、後の【7】で詳しく説明する大学院の「競争的リーダー・コース」と接合しており、早期履修制度を活用して5年間で大学院の修士号まで取得できる独自制度にエントリーするための要件となっています。大学院「競争的リーダー・コース」に関しては、【7】を参照してください。

〈演習論文を書こう〉

「演習」自体が必修ではないため、演習論文の提出も必須ではありません。しかし、演習論文は大学での学修の「総決算」です。自ら調べて、自らの考えを、論理的に、自らの言葉で表現することは、資料の調べ方や論理的な文章の書き方を身につけることとともに生涯忘れない知識となるでしょう。

論文のテーマの探索、既存研究の調査、資料を調べる方法、集めた情報の取捨選択、論文の論理展開の構築、論理的文章の執筆など、社会人になってからも求められる能力です。経営学部経営学科では、演習論文をできるだけ執筆することを推奨しています。なお、「演習Ⅱ（8単位）」は演習論文を提出しなければ付与されません。

【3】講義科目

演習科目のところでも述べたように、経営学部経営学科ではゼミ選択を通じて、オーダーメイド的に学生個々人の講義科目の体系が決まります。人によっては、各コースをオーバーラップして修得することもできます。また、ゼミとは切り離して、興味のある領域を学びたい人のためにも、領域別にコースが分かれており、セメスター毎に難易度が増し、段階的に専門領域を学べるようにも配置されています。

■第1セメスター配置科目

経営学・会計学・経営情報学とはどんな学問なのか、どのようなテーマを学修するのかをできるだけ具体的にイメージしてもらい、経営学・会計学・経営情報学に親しんでもらうことが目的です。

第1 Semesterでの学科専攻講義科目は6科目です。「簿記入門」のみ必修であり、残り4科目以上を選択必修科目から取得することが卒業の条件となります。

【科目名】

簿記入門（必修）、経営学基礎論、企業と社会、国際経営入門、入門ファイナンス、経営情報学Ⅰ

■第2 Semester配置科目

経営学・会計学・経営情報学には幅広くさまざまな学問分野があります。それぞれの分野ごとにその入門的な科目を配置し、みなさんに経営学・会計学・経営情報学の基礎的な知識を修得してもらうことが大きな目的です。

■第3 Semester配置科目

第3 Semesterでは、卒業までの学修目標を意識し、多様な学問領域の中から自分に適した方向を探すことを目的としています。第3 Semesterでの学部専攻の講義科目は、選択科目です。

（注）第3 Semesterに開設される選択科目は、「専攻科目一覧」を参照してください。

第3 Semester以後の講義科目も、ゼミ選択によって、どの順番でどの科目を取得していくのかは指導教授と相談の上、「ゼミ探求」で配布される「履修推奨科目一覧」を参照しながら、計画的に履修してください。

【4】経営学科科目一覧

演習科目

配当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
1	ゼミ探求	2	B-01-MAN-1-01	100	
2・3	基礎演習	4	B-01-MAN-1-12	200	
2・3	特別基礎演習	4	B-01-MAN-1-13	200	
4・5	演習Ⅰ	4	B-01-MAN-2-15	400	
4・5	特別演習Ⅰ	4	B-01-MAN-2-16	400	
6・7・8	演習Ⅱ	8	B-01-MAN-3-11	400	
6	管理者体験演習	2	B-01-MAN-3-12	500	

必修科目

配当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
1	簿記入門	2	B-01-MAN-1-02	100	

選択必修科目

配当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
1	経営学基礎論	2	B-01-MAN-1-03	100	
1	企業と社会	2	B-01-MAN-1-04	100	
1	国際経営入門	2	B-01-MAN-1-05	100	
1	入門ファイナンス	2	B-01-MAN-1-06	100	
1	経営情報学Ⅰ	2	B-01-MAN-1-07	100	

経営（マネジメント）コース専攻科目

担当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
2	経営管理論	2	B-01-MAN-1-14	200	
2	経営組織論	2	B-01-MAN-1-15	200	
2	経営戦略論	2	B-01-MAN-1-16	200	
2	人的資源管理論	2	B-01-MAN-1-17	200	
2	経営思想を知る	2	B-01-MAN-1-18	200	
2	観光経営論	2	B-01-MAN-1-19	200	
2	生産管理論	2	B-01-MAN-1-20	200	
2	中国ビジネス論	2	B-01-MAN-1-21	200	
3	企業統治論	2	B-01-MAN-2-01	300	
3	経営意思決定論	2	B-01-MAN-2-02	300	
3	国際経営戦略論	2	B-01-MAN-2-03	300	
3	組織行動論	2	B-01-MAN-2-04	300	
3	社会的企業論	2	B-01-MAN-2-05	300	
3	産業技術論	2	B-01-MAN-2-06	300	
3	産業技術史	2	B-01-MAN-2-07	300	
4	企業倫理論	2	B-01-MAN-2-17	400	
4	イノベーションマネジメント論	2	B-01-MAN-2-18	400	
4	組織学習論	2	B-01-MAN-2-19	400	
5	経営学原理	2	B-01-MAN-3-01	500	
5	国際比較経営論	2	B-01-MAN-3-02	500	
5	企業文明論	2	B-01-MAN-3-03	500	
1	競争的ビジネスリーダー交流プログラムA	6	B-01-MAN-1-08	200	
1	競争的ビジネスリーダー交流プログラム（国内学習）	2	B-01-MAN-1-09	200	
1	競争的ビジネスリーダー交流プログラムB（海外実践）	2	B-01-MAN-1-10	200	

会計コース専攻科目

担当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
2	初級商業簿記	2	B-01-MAN-1-22	200	
3	中級商業簿記	2	B-01-MAN-2-08	300	
4	上級商業簿記	2	B-01-MAN-2-20	400	
3	財務会計入門	2	B-01-MAN-2-09	300	
4	財務会計論	2	B-01-MAN-2-21	400	

5	連結会計論	2	B-01-MAN-3-04	400	
5	キャッシュフロー会計論	2	B-01-MAN-3-05	400	
6	国際財務報告論	2	B-01-MAN-3-13	400	
3	工業簿記	2	B-01-MAN-2-10	300	
4	原価計算論	2	B-01-MAN-2-22	400	
5	管理会計論	2	B-01-MAN-3-06	400	
6	会計監査論	2	B-01-MAN-3-14	400	
2	財務諸表分析入門	2	B-01-MAN-1-23	200	
4	財務諸表分析	2	B-01-MAN-2-23	400	
2	コーポレートファイナンス入門	2	B-01-MAN-1-24	200	
3	コーポレートファイナンス	2	B-01-MAN-2-11	300	
6	企業評価論	2	B-01-MAN-3-15	500	
4	法人税法	2	B-01-MAN-2-24	400	
5	所得税法	2	B-01-MAN-3-07	400	

経営情報コース専攻科目

配当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
2	経営情報学Ⅱ	2	B-01-MAN-1-25	200	
3	経営情報システム論	2	B-01-MAN-2-12	300	
4	経営情報活用論	2	B-01-MAN-2-25	400	
5	経営科学	2	B-01-MAN-3-08	500	
2	経営データ分析Ⅰ	2	B-01-MAN-1-26	200	
3	経営データ分析Ⅱ	2	B-01-MAN-2-13	300	
4	経営データ分析Ⅲ	2	B-01-MAN-2-26	500	
4	ビジネスプログラミング	2	B-01-MAN-2-27	300	
5	プログラミングⅠ	2	B-01-MAN-3-09	400	
6	プログラミングⅡ	2	B-01-MAN-3-16	500	

特別講義

配当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
5	特講・グローバルリスクマネジメント	2	B-01-MAN-3-10	500	

教職課程科目

配当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
3	企業システム論	2	B-01-CME-2-01	300	
3	マーケティング論	2	B-01-CME-2-02	300	

3	グローバルビジネス	2	B-01-CME-2-03	300	
3	ビジネスストーリーA	2	B-01-CME-2-04	300	
3	経営立地論	2	B-01-CME-2-05	300	
4	社会データ分析	2	B-01-CME-2-06	400	
4	ビジネスストーリーB	2	B-01-CME-2-07	400	
5	グローバルマーケティング	2	B-01-CME-3-16	400	
6	アジア企業経営論	2	B-01-CME-3-17	500	
4	経済原論	2	B-01-ECT-2-01	400	
5・6	政治学原理	4	B-01-POL-3-01	500	
5・6	職業指導	4	B-01-CAE-3-01	500	

両学科共通

担当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
1	情報リテラシー	1	B-01-MAN-1-11	100	
5	スポーツと経済	2	B-01-ECO-3-01	400	
5	スポーツマネジメント論	2	B-01-MAN-3-21	400	
5	スポーツ政策論	2	B-01-POS-3-01	400	
6	スポーツマーケティング論	2	B-01-HSS-3-01	500	
6	Global Understanding and Communication	4	B-01-CST-3-01	500	
2	統計学	4	B-01-STS-1-01	200	
4	ファイナンス理論	4	B-01-MOF-2-01	400	
4	アジア経済論A	2	B-01-ECP-2-01	400	
4	アジア経済論B	2	B-01-ECP-2-02	400	
4	中国経済論A	2	B-01-ECP-2-03	400	
4	中国経済論B	2	B-01-ECP-2-04	400	
5	国際金融論	4	B-01-MOF-3-01	400	
3	商法	2	B-01-CIL-2-01	300	
4	民法	2	B-01-CIL-2-02	400	
4	会社法	2	B-01-CIL-2-03	400	
5	労働法	2	B-01-SOL-3-01	400	
6	経済法	2	B-01-SOL-3-02	500	
4	アジア政治論	2	B-01-INR-2-01	400	
4	京都市の産業と産業政策	2	B-01-ECP-2-05	400	
3	上級外国語A（ドイツ）	2	—	300	
4	上級外国語B（ドイツ）	2	—	400	

3	上級外国語C (ドイツ)	2	—	300	
4	上級外国語D (ドイツ)	2	—	400	
3	上級外国語A (フランス)	2	—	300	
4	上級外国語B (フランス)	2	—	400	
3	上級外国語C (フランス)	2	—	300	
4	上級外国語D (フランス)	2	—	400	
3	上級外国語A (中国)	2	—	300	
4	上級外国語B (中国)	2	—	400	
3	上級外国語C (中国)	2	—	300	
4	上級外国語D (中国)	2	—	400	
3	上級外国語A (スペイン)	2	—	300	
4	上級外国語B (スペイン)	2	—	400	
3	上級外国語C (スペイン)	2	—	300	
4	上級外国語D (スペイン)	2	—	400	
3	上級外国語A (コリア)	2	—	300	
4	上級外国語B (コリア)	2	—	400	
3	上級外国語C (コリア)	2	—	300	
4	上級外国語D (コリア)	2	—	400	
1	キャリア実習・実習指導	2	B-01-CAE-1-01	100	
3・4	キャリア実習・実習指導 (大学コンソーシアム京都)	4	B-01-CAE-2-01	400	
—	特別講座	12	—	—	

【5】 その他履修についての注意事項

- (1) 「上級外国語 A, B, C, D」は各々8単位まで学科選択科目として卒業要件単位に算入できます。詳細は、「選択外国語科目の履修」を参照してください。
- (2) 学部共通コース以外の学生が、学部共通コース科目を履修することは原則としてできませんが、特別に許可された場合にかぎり、随意科目（卒業要件単位に算入できない）扱いとして、受講することはできます（外国語セミナーを除く）。学部共通コース科目の履修を希望する場合は、人数調整の必要があるので事前にCampus HUBへ相談に来てください。ただし、スポーツサイエンスコースの次の4科目（「スポーツマーケティング論」、「スポーツマネジメント論」、「スポーツ政策論」、「スポーツと経済」）のうち、4単位まで学科選択科目として卒業要件単位に算入できます。
- (3) 経営学特別講義は、8単位まで学科選択科目として卒業要件単位に算入でき、これを超えたものは随意科目扱いとなります。なお、原則として単年度開講のため、次年度開講予定は未定です。
- (4) 専攻科目で、それぞれの分野の卒業要件単位数を超えて修得した場合、次の表のとおり単位集計します。

集計分野	超過科目の取り扱い
学科必修科目	
学科選択必修科目	超過分の単位は学科選択科目へ
学科選択科目	超過分の単位はフリーゾーンへ

【6】競争的ビジネスリーダー交流プログラム（サマーセッション）

このプログラムは、学生が協働（チームワーク）を通じて、競争的ビジネスリーダーが必要とされる能力とは何であるのかに関するパワポを作成した上で、実際のビジネスリーダーにプレゼン報告をして、ディスカッションを通じて、リーダーシップの具体的内容を学修するものです。具体的にはサマーセッションの時期に、おおよそ以下のように展開されます。

1. 戦略論・感情知能理論・創造的発想法・経験学習論といった文献を使いながら、担当教員らの指導の下で、協働して分散的に情報収集・情報共有した上で、発表する企画案を構想し、パワポ作成をする
2. 社長をはじめとする経営幹部層や現場管理者らに対して、各階層におけるビジネスリーダーが要求される能力・人間特性に関する報告を行し、ディスカッション（座談会）を行う
3. ビジネスリーダーからの返答を元に、ビジネスリーダーが要求される能力と報告パワポ作成時までに自分たちが問われた能力との類似性を、学生たちで批判的に吟味し、相互フィードバックを行う

訪問先の企業は、年度毎に変更され、業種も多岐にわたり、大企業から中小企業まで、海外に進出している日本企業へのビジネスリーダーへのインタビューを行っています。

このプログラムに参加して獲得を期待できる効果は、年次の違う学生ともチームを組んで協働しますので、協働プロセスの中で、自分たち自身、新奇性のある企画を構築する上で必要な能力が問われます。さらに、実際に競争的ビジネスリーダーへの発表と質疑応答を行いますから、競争的ビジネスリーダーに必要な能力・人間特性が何であるかを、知識としても、経験・体験としても、学べる枠組になっています。

プログラムの担当者らによって、業種が何か、訪問先がどこか、サマーセッション前の事前学修がいつから開始されるのかなど、年度毎に変わります。詳しい説明会が毎年3月から4月の履修登録時期になされますので、興味のある学生は説明会に必ず参加してください。

夏のサマーセッションの枠で展開される科目であり、1の部分を事前学修として行い、2、3が現地学修となります。事前学修と現地学修全部で4単位もしくは6単位で（担当教員によって異なります）、履修登録制限外の科目となっています。履修登録は1年生から4年生までが可能となっています。

低年次生は今後の自分が大学時代に獲得すべき能力が何であるのかをイメージできますし、高年次生は就活時にも問われる能力の再確認になります。

【7】大学院「競争的リーダー・コース」との接合

経営学科には、早期履修制度（下記の【8】を参照）を活用して、大学院の「競争的リーダー・コース」に進学できる仕組みが設置されています。大学院の「競争的リーダー・コース」は、経営学科に所属する学生の内部進学用に設置されているもので、学科の教育理念である「競争的リーダーの育成」とコンセプトを共有しています。

通常の大学院の場合、4年間の学部以後に、2年間の修士課程が必要ですが、このコースは、学部の4年時に、早期履修制度を活用して、修士1年次に取得できる大学院の科目を学部4年次の時期に先取りして履修するものです。このことで、大学院1年分を実質的に短縮させることができ、学部からトータル5年間で学士と修士の二つの学位を取得できます。

具体的なこのコースでの学修内容は以下の通りとなっています。

1. 学部4年次の時期に、管理者体験演習（学部3年後期）でやっている下級生への管理者活動を、1年間追加的に展開することで、トータル1.5年間、管理者に必要な人間特性を学ぶ
2. 1.5年間の管理者活動の体験をもとに、課題研究として、新卒採用制度や管理者養成研修制度の試案などの論文執筆を目指す

修了後の学生の就職先は、大手企業の法人営業部門や人事部門をターゲットにしています。競争的ビジネスリーダーを目指す学生は、1年次から大学院「競争的リーダー・コース」も視野に入れてみてください。

【8】経営学科生の大学院経営学研究科科目早期履修について

龍谷大学経営学研究科では経営学部生の大学院科目早期履修制度を導入しています。

この制度は、本学経営学部卒業年次生のうち、本学大学院経営学研究科へ進学する者で、特に優秀で勉強意欲の旺盛な者に対する教育上の特例措置として、学士課程における修学に支障のない範囲で、本学大学院経営学研究科科目の履修を認めるものです。学部段階で、大学院の教育・研究環境に触れるとともに、学部と大学院の接続した教育を展開することにより、学部生の研究意欲の向上をはかることを目的としています。

「経営学部学生 of 大学院経営学研究科における科目履修に関する内規」に基づき、下記の通り経営学部生の大学院科目早期履修の申請を受け付けますので、希望者は所定の期間に必要な手続きを行ってください。

記

1. 申込資格

以下の3点を全て満たす者を対象とします。

- (1) 経営学部の卒業年次生であること
- (2) 3年次終了段階で、卒業要件となる単位を110単位以上修得していること
- (3) 大学院経営学研究科が実施する以下の入学試験に出願を予定している者
学内推薦入学試験（11月実施）
- (4) 経営学科における応用演習（管理者体験演習）を修得済みであること

2. 申込手続

- (1) 研究計画および志望理由書の提出
ポータルを通じて資料（①「志望願書」、②「演習論文」、③「指導教員推薦書」）を受け取り、受付期間に必要な書類を提出してください。
【資料配付】3月上旬：ポータル
【受付締切】3月下旬
【提出書類】①「志望願書」、②「演習論文」、③「指導教員推薦書」
※提出書類には、ゼミ（演習論文）担当教員【指導教員】の推薦・署名・捺印が必要です。
- (2) 受講者の選考
提出書類をもとに受講者の選考を行います。
- (3) 受講許可発表日
4月上旬 ポータルサイト

3. 履修許可について

大学院科目の履修許可を受けた者が、要件に定める大学院入学試験で不合格となった場合、または入学手続きを所定期間に行わなかった場合には、許可を取り消します。

4. 費用について

科目等履修審査料、科目等履修許可料、及び科目等履修料等の学費は、「学費等納入規程」の規定に基づき、免除します。

5. 単位認定について

履修許可を受けた者が、許可された大学院科目について60点以上の成績評価を得た場合には、所定の単位を与えます。ただし、**当該科目の単位は、経営学部の卒業要件単位には含みません。**

本制度により修得した単位については、経営学研究科に正規学生として入学した際に、龍谷大学大学院学則第9条の2を適用し、大学院科目として単位認定します。

【9】 その他の教育課程・教育プログラム

経営学部「データサイエンス・AI応用基礎プログラム」

経営学部では、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に準拠した教育プログラムとして、「データサイエンス・AI応用基礎プログラム」を展開しています。

詳しくは、特設ページをご確認ください。

RISE Programの単位認定

RISE Programで修得した単位は、5-weekプログラムは、「教養選択科目」として6単位まで、Semesterプログラムは、「必修語学科目」や「教養選択科目」として18単位まで認定します。RISE Programの単位認定について不明な点がある場合、Campus HUBまでお問い合わせください。学部共通コースの単位認定については、Campus HUBにお問い合わせください。

留学期間中のゼミの取り扱い

留学する時期や期間によって、ゼミの履修可否が変わります。詳しくは、ゼミ担当教員およびCampus HUBにお問い合わせください。

【10】演習論文提出要領（4年次生）

- (1) 演習論文を提出しなければ、演習Ⅱの単位は修得できません。
- (2) 対象：演習Ⅱ受講者全員。
- (3) 論文題目提出：7月中（予定）に、各演習のmanabacourse等より提出（原則として変更は認められません。提出期間は、ポータルサイトおよびmanabaコースニュースでお知らせします）。
- (4) 論文提出：1月上旬（予定）、10月頃演習担当者より提出方法についての説明があり、指定された方法で提出（提出日等は、ポータルサイトおよびmanabaコースニュースでお知らせします）。

(5) 論文提出要領

できるかぎり次の要領にしたがって、演習論文要旨、目次、本文、脚注、参考文献リストをパソコンにて作成してください。

1) 用紙の種類：普通紙

2) 用紙サイズ：A4判（縦置き）

3) 印刷方法：片面印刷

4) 印字の要領：

①演習論文要旨（下図の「演習論文要旨作成例」参照）

a. 記載事項：提出年度、担当者名、題目、学籍番号、氏名、要旨

b. 印字方向：横書き

c. 要旨字数：400字以内（40字／行×10行）、1枚

d. 上下、左右の余白

上下余白：35mm、左余白：30mm、右余白：30mm

e. 文字サイズ、フォント：指定なし

注：副題を追加・変更する場合は、必ず担当教員の確認をしてもらってください。

②本文（下図の「本文作成例」参照）

a. 印字方向：横書き

b. 1ページの字数：1200字（40字／行×30行）

c. 上下、左右の余白：

上下余白：35mm、左余白：30mm、右余白：30mm

d. 文字サイズ：10.5ポイントを標準的なサイズとする。

e. 本文のフォント：指定なし

f. 頁数：本文の各項のフッター中央部に“ページ数”を印字すること（ただし本文以外には不要）。

g. 原則として、禁則処理をすること。

③目次、脚注、参考文献リスト（下図の「目次作成例」、「脚注作成例」、「参考文献リスト作成例」参照）

a. 印字方向：横書き（それぞれ本文と別の用紙に印字すること）

b. 上下左右の余白：

上下余白：35mm、左余白：30mm、右余白：30mm

c. 字数、文字サイズ、フォント：指定なし

- d. 目次は論文の最初につけること。
- e. 参考文献リストは本文の最後にまとめて記載することが望ましい。

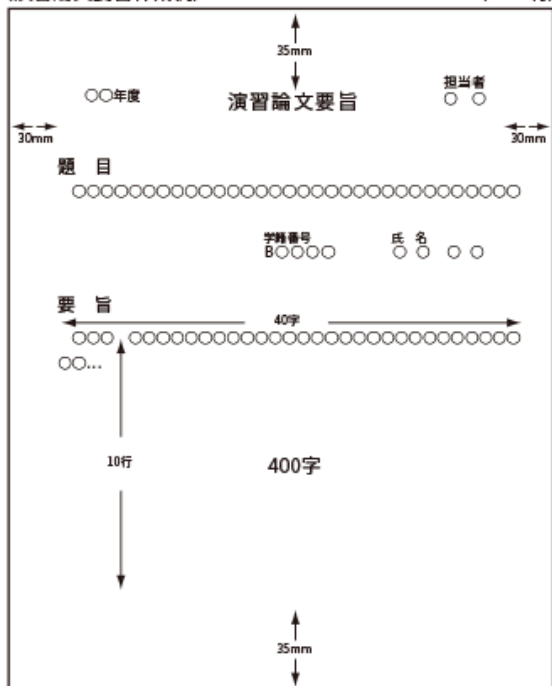
④本文の提出枚数

10枚（12,000字）以上16枚（20,000字）程度（本文のみの枚数であって、目次、参考文献リストは除く）。なお、16枚を超える場合は、必ず担当教員の確認をしてもらってください。

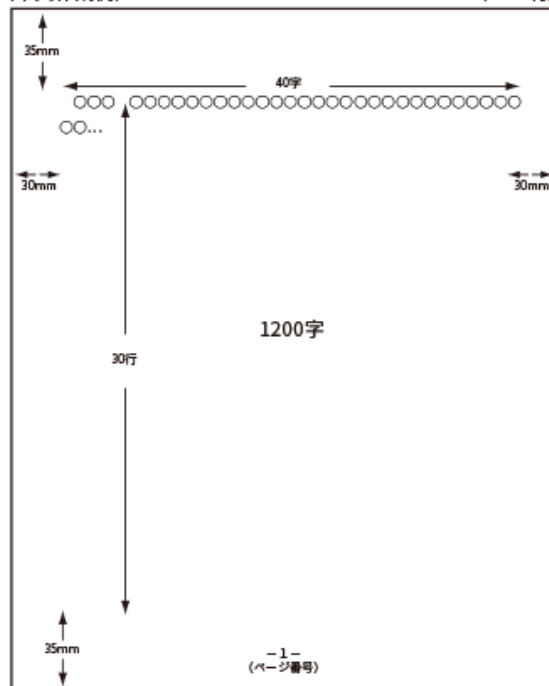
注：複数名が共同で論文を作成する場合、以下の要領にしたがってください。

- a. 演習論文要旨：各々提出してください。なおその際は、共同執筆者の氏名を本人氏名欄の下に明記してください。
- b. 本文の提出枚数は各々が上記枚数を満たさなければなりません。また、執筆担当部分を目次の余白に明記してください。
- c. 論文提出：1部で可。ただし、共同執筆者全員で代表して提出する人を決めてください。

(演習論文要旨作成例) (A 4判)



(本文作成例) (A 4判)



(目次作成例) (A 4判)

	↑ 35mm ↓	
←30mm	目 次	→30mm
	はじめに (序論) ----- 1	
	第1章 ○○○○ (本論)	
	第1節 ○○○○ ----- 3	
	第2節 ○○○○ ----- 5	
	第2章 ○○○○	
	第1節 ○○○○ ----- 8	

	おわりに (結論) ----- 15	
	↑ 35mm ↓	
※場合によっては、ページ数を省略することも可。		

(脚注作成例) (A 4判)

	↑ 35mm ↓	
←30mm	(脚注) (1) 藤谷太郎『経営学入門』藤谷出版会、1993年、50頁 (2) -----	→30mm
	↑ 35mm ↓	

(参考文献リスト作成例) (A 4判)

	↑ 35mm ↓	
←30mm	(参考文献) 1. ○○研究会『○○入門』○○出版 1998年	→30mm
	↑ 35mm ↓	

■ 演習論文を書くために

(1) 演習論文について

本学部における演習論文とは演習を履修し、2年間の研究成果をまとめ、所定の規定、手続きによって指導教授に提出するものです。なお、演習は演習論文を提出したうえで、さらに教授の評価を得ることによって単位が認定（修得）されます。それゆえ、以下の説明を参考にし、独創的で内容ある演習論文を作成してください。

(2) 演習論文を作成するために

1) 題目（テーマ）の選定

演習論文を書くために、まず、あらかじめ題目を選定せねばなりません。題目は演習で勉強していることやそれに関する内容、自分が本当に興味を抱いていることにもとづいて選定するのが良いでしょう。指導教授の適切な助言を得て、自分が最も関心を持つ内容を正確に表現するような題目を選定することが必要です。

2) 資料の収集

題目が決定すれば、それに関係する適切な資料を検索・収集する作業に入ります。この作業は主に2つの方法があります。第1は題目に関係のある何冊かの書物を精読し、その中に出てくる資料をメモし、それらを検索する方法です。第2は最初から題目に関係のある資料を「文献目録」から検索する方法です。これらの方法によって、まず自分の題目にあった参考資料を図書館、社会科学研究所資料室での確かかつ迅速に収集することが必要です。また、インターネットを利用した資料収集も有効です。

(3) 演習論文を書くために

1) 論文の構成

さて、整理し、精読した資料をもとに、論文を組み立てる作業に入ります。論文はまず、問題提起があり、それを本文で立証し、結論を持った構成でなければなりません。それゆえ、一般的には論理の構成を序論、本論、結論とするのが基本のかたちです。序論では問題提起を行い、論文の概要や目的を明らかにし、できるだけ簡単に要領よくまとめねばなりません。本論は論文の論理展開の中心部分ですから、序論での問題提起を各章節を通じて、さまざまな角度、視点から具体的に論理を展開しなければなりません。結論は締め括りの部分であり、自分の積極的、かつ独創的な考えを示すことが必要です。

2) 論文の推敲と表現

論文の構成が定まれば、いよいよ執筆に取りかかる作業へ移ります。一般に、文体は「～である」調が基本であり、平明な表現で、誤字や間違った言葉の使い方に極力注意し、用語の吟味にも気を配る必要があります。また、何度も読み返し、推敲を重ねることも必要です。

(4) 演習論文を書くための留意点

- 1) 図や表を使用する場合、出典を明らかにし、通し番号（例えば図1、表1など）をつけること。
- 2) 論文の最初に目次をつけること。
- 3) 論文の中で他人の論文や著書から引用した時は、必ず引用部分とその文献を明示すること。ことわりなしに引用すること（そのまま写すこと）は、窃盗と同じ罪をおかすことなので厳に慎むこと。
- 4) 引用の仕方はそのまま引用する場合は、邦文では「」、欧文では“”を用い、その右肩に注番号（例えば (1)）をつけ、脚注で出典を明らかにすること。
- 5) 邦文の引用文献の書き方は次のようにすること。
 - ① 単行書：著者名、書名、発行所、発行年、引用のページ
例：龍谷太郎『経営学入門』龍谷大学出版会、1993年、50ページ
 - ② 論文：著者名、論文名、雑誌名、巻号、発行年月、引用のページ
例：龍谷太郎「日本的経営について」『経営学論集（龍谷大学）』第29巻第2号、1993年4月、60ページ（なお複数ページにわたる場合は、60～62ページとすること）
- 6) 欧文の引用文献の書き方は次のようにすること。
 - ① 単行書（邦訳のない場合）：著者名、書名、発行所、発行地、発行年、引用ページ例：Taro Ryukoku, Japanese Management, Ryukoku University Press, Kyoto, 1983, pp.25-28.（引用が1ページだけの場合は、例えばp.25とする。）
 - ② 単行書で邦訳のある場合には上述の単行書のあとに括弧して次のように書くこと。
（龍谷太郎訳『日本的経営』龍谷大学出版会、1983年、25～28ページ）
- 7) 引き続き、また重ねて引用する文献名は邦文の場合、同上ないし前掲書とし、欧文の場合はibid, ないしop.cit.,と略してもよい。ただし、前掲書（op.cit.,）の場合は引用ページを書くこと。
- 8) 演習論文を作成する際に使用した参考文献は、論文の最後に邦文の場合は著者名の五十音順に、欧文の場合はアルファベット順に書くことが望ましい。

〈付録〉演習論文を書くための参考文献

- (1) 龍谷大学社会科学研究所『経済・産業情報ガイド』1992年
- (2) 木村時夫『事例レポート・論文の書き方』南雲堂、1979年
- (3) 杉原四郎、井上忠司、榎本隆司『研究レポートのすすめ一卒論・ゼミ論のまとめ方一』有斐閣、1979年

商学科専攻科目の教育目的および履修方法

【1】経営学部商学科で学修・専攻すること

経営学部商学科では、専攻科目を通して、何を学ぶのでしょうか？「経営学？それとも商学？」と疑問をもつ学生も多いでしょう。経営学部商学科では、まず経営学部について「企業・会社が行う様々な活動」に関することを学修・専攻する場と位置付けています。そのうえで、この活動のうち「商取引」に比重をおいて学修・専攻する場を商学科と位置付けています。もう少し具体的なイメージをもちたい人は、下図を参照してください。

企業・会社が行う様々な活動：

ヒト・モノ・カネ・情報の

入手・蓄積・管理・活用に関する
ことを学修・専攻する場

商品・サービス

それらが生み出される過程

企業・会社＝商品・サービス＝顧客・市場・社会の関係

それらの関係が構築される過程

に比重をおいて学修・専攻する場

【2】カリキュラム（教育課程）の全体像

経営学部商学科のカリキュラムは、大きく、次の2つの側面をもっています。ひとつの側面は「Startup Mindsetをもった人材育成のためのカリキュラム」、もうひとつの側面は「講義型科目（理論）と実践型科目（実践）を往還するカリキュラム」です。これら2つの側面をもつカリキュラムをしっかりと理解し、計画的な履修を心がけましょう。

1. Startup Mindsetをもった人材育成のためのカリキュラム

教育とは人を育てることに他なりません。では、経営学部商学科では、どのような人を育てたいのか？その答えがStartup Mindsetをもった人材育成です。

Startupとは、一般的には「起業（する）」「新興（新規）企業」等の意味で用いられますが、経営学部商学科では、もう少し広く「新しい物事を始める」という意味で用いています。Mindsetについては「考え方」という意味で用いており、心や精神（意識）に重きを置くMindや日本語で言う“マインド”と区別しています。つまり「誰かの後を追う」のではなく、「新しい物事を始める」という精神（意識）を常にもち、さらには新しい物事を始めるための考え方や知識・能力も併せもっている、そのような人材を育てたいという思いがこめられています。

また、このような思いのもとで「Startup Mindsetをもった人材」には「型にはまりすぎない」思考などが必要であると考え、経営学部商学科のカリキュラムは、単位修得が卒業要件となる必修科目や選択必修科目を最小限にとどめています（必修4科目8単位のみ）。いかにいえば、独自かつ積極的な履修計画をたてる能力も必要なものだと考えています。

もっとも、「Startup Mindsetをもった人材」が全くイメージできず、独自かつ積極的な履修計画がうまくたてられない人もでてくるでしょう。そのような人には、①「顧客・市場・社会を意識し、それらが求める“新しい何か”に気づき、その何かを提供できる人材」に近づくための推奨科目（マーケティングコース推奨科目）と履修のタイミングを示した履修モデル、②「新しい何かを提供するために、事業を創造するというアクションを起こすことができる人材」に近づくための推奨科目（事業創造コース推奨科目）と履修のタイミングを示した履修モデルを用意しています（具体的な科目等は、説明会で紹介）。

2. 講義型科目（理論）と実践型科目（実践）を往還するカリキュラム

「Startup Mindsetをもった人材」に近づくためには、経営学部商学科が用意した科目を履修するだけで十分でしょうか？

単位修得が容易と噂される科目を中心に履修登録し、出席は程々に、最低限の成績で単位を修得する。学生たちが、そのような受動的・消極的な状況では、「Startup Mindsetをもった人材育成」は、単なるスローガンにとどまってしまう。そこで、能動的・積極的に履修するための仕掛けを考え、組み込んだ結果、「講義型科目（理論）と実践型科目（実践）を往還するカリキュラム」の側面ももつこととなりました。

具体的には、一方で「形式知を獲得する場」として講義型科目を設け、他方で「形式知を活用する場+暗黙知を獲得する場」として実践型科目を設けています。簡単に言えば、従来からの講義型科目で得た知識が、どのような場面で、どのように活用されるのかをイメージ・体感する場として、実践型科目が新たに設けられています。

形式知 言語化された知識

例] 自転車の乗り方の説明

暗黙知 言語化されていない何か（知）

例] 実際に自転車に乗るための説明できていない何か

そしてまた、講義型科目を通しての学修と実践型科目を通しての学修とを総合する場（集大成の科目）として演習型科目も設けています。ここに含まれる演習Ⅰや演習Ⅱは、形式知や暗黙知を身につける「学修の場」をこえて、学生一人一人が、独自の問いをたて、その問いに対する答えを論理的に導き、新たな知識を生み出す（人類の知識の総量を増やす）ための「研究の場」となります。

加えて、この「講義型科目と実践型科目を往還するカリキュラム」が、どの学生にとっても意味あるものになるよう、低学年次に素地形成科目、具体的には、能動的な学修や充実した大学生活のための素地形成科目：フレッシューズゼミ、大学の科目を受講するための素地形成科目：情報リテラシー・アカデミックスキルズA・B、就職や大学卒業後の生き方にかかわる素地形成科目：キャリア&ライフマネジメント、も設けています。

このカリキュラムにおいて肝要なことは、講義型科目と実践型科目の「往還」です。

実践型科目の方が「楽しそう」「役立ちそう」と思う人が多いかもしれません。その結果、実践型科目のみに興味を示し、大学の従来の・本質的な科目である講義型科目の履修に消極的な人が出てくるかもしれません。しかし、いざ実践の場にたってみると、予備知識（形式知）の無さを実感するでしょう。あるいは、意外な科目の、意外な知識（形式知）が役立つことに気づくかもしれません。実践型科目での履修を通じて、形式知の不足を実感してもらいたい。そしてその実感をきっかけにして、講義科目の履修を能動的・積極的なものに変えてもらいたい。さらには、卒業後においても、理論と実践の往還を以て社会の様々な問題と向き合えるようになってもらいたい。そのように考えて「講義型科目（理論）と実践型科目（実践）を往還するカリキュラム」を作り上げました。

これらの狙いをしっかりと理解し、講義型科目と実践型科目をバランスよく往還するような履修計画をたてましょう。

〈カリキュラムの概念図〉

1	フレッシューズゼミ	2	B-02-CME-1-04	100	
1	情報リテラシー	1	B-02-MAN-1-01	100	
1	ベーシックアカウンティングⅠ	2	B-02-CME-1-05	200	
1	ベーシックマーケティング	2	B-02-CME-1-06	200	
2	プロジェクト入門	2	B-02-CME-1-08	200	
3	キャリア&ライフマネジメント	2	B-02-CME-2-01	200	
3	社会調査実践	2	B-02-CME-2-02	300	
3	アカデミックスキルズB	2	B-02-CME-2-03	200	

専門科目

配当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
2	ベーシックアカウンティングⅡ	2	B-02-CME-1-09	200	
2	流通システム論	2	B-02-CME-1-10	200	
2	ビジネス歴史入門	2	B-02-CME-1-11	200	
2	グローバルビジネスの基礎	2	B-02-CME-1-12	200	
2	ワークルール入門	2	B-02-CME-1-13	200	
3	プロジェクト実践	4	B-02-CME-2-04	300	
3	マーケティングリサーチ	2	B-02-CME-2-05	300	
3	コンテンツビジネス実践Ⅰ	2	B-02-CME-2-06	300	
3	起業家行動論	2	B-02-CME-2-07	300	
3	企業システム論	2	B-02-CME-2-08	300	
3	マーケティング論	2	B-02-CME-2-09	300	
3	消費者問題論	2	B-02-CME-2-10	300	
3	グローバルビジネス	2	B-02-CME-2-11	300	
3	ビジネス歴史A	2	B-02-CME-2-12	300	
3	経営立地論	2	B-02-CME-2-13	300	
4	ローカルビジネスのフロンティア	4	B-02-CME-2-14	300	
4	コンテンツビジネス実践Ⅱ	4	B-02-CME-2-15	300	
4	デザインマネジメント実践	4	B-02-CME-2-16	300	
4	社会データ分析	2	B-02-CME-2-17	300	
4	地域企業論	2	B-02-CME-2-18	300	
4	京都企業論	2	B-02-CME-2-19	300	
4	事業システム論	2	B-02-CME-2-20	300	
4	グローバルストラテジー	2	B-02-CME-2-21	300	
4	ソーシャルマーケティング	2	B-02-CME-2-22	300	
4	商品開発論	2	B-02-CME-2-23	300	

4	ビジネスストーリーB	2	B-02-CME-2-24	300	
4	コンテンツビジネス論	2	B-02-CME-2-25	300	
5	食農ビジネスのフロンティア	4	B-02-CME-3-01	400	
5	地域と企業	4	B-02-CME-3-02	400	
5	京都企業の現場	2	B-02-CME-3-03	400	
5	デジタルマーケティング	2	B-02-CME-3-04	400	
5	空間データ分析	2	B-02-CME-3-05	400	
5	ケースで学ぶアカウンティング	2	B-02-CME-3-06	400	
5	ソーシャルビジネス論	2	B-02-CME-3-07	400	
5	グローバルマーケティング	2	B-02-CME-3-08	400	
5	ロジスティクス	2	B-02-CME-3-09	400	
5	中小企業経営論	2	B-02-CME-3-10	400	
5	地域資源論	2	B-02-CME-3-11	400	
5	ビジネスイノベーション	2	B-02-CME-3-12	400	
6	ケースで学ぶローカルファイナンス	2	B-02-CME-3-13	400	
6	アジア企業経営論	2	B-02-CME-3-14	400	
6	ケースで学ぶビジネスストーリー	2	B-02-CME-3-15	400	
6	文献講読A	2	B-02-CME-3-16	400	
7	文献講読B	2	B-02-CME-3-17	500	
4・5	演習Ⅰ	4	B-02-CME-2-26	400	
6・7・8	演習Ⅱ（演習研究含む）	6	B-02-CME-3-18	500	

両学科共通科目（教職・資格系科目）

担当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
1	経営学基礎論	2	B-02-MAN-1-02	200	
1	経営情報学Ⅰ	2	B-02-MAN-1-03	200	
1	簿記入門	2	B-02-MAN-1-04	200	
2	経営管理論	2	B-02-MAN-1-05	200	
2	経営情報学Ⅱ	2	B-02-MAN-1-06	200	
2	経営データ分析Ⅰ	2	B-02-MAN-1-07	200	
3	経営データ分析Ⅱ	2	B-02-MAN-2-01	300	
4	経営情報活用論	2	B-02-MAN-2-07	400	
2	初級商業簿記	2	B-02-MAN-1-08	200	
2	財務諸表分析入門	2	B-02-MAN-1-09	200	
3	経営意思決定論	2	B-02-MAN-2-02	300	
3	経営情報システム論	2	B-02-MAN-2-03	300	

3	中級商業簿記	2	B-02-MAN-2-04	300	
3	財務会計入門	2	B-02-MAN-2-05	300	
3	工業簿記	2	B-02-MAN-2-06	300	
5	プログラミングⅠ	2	B-02-MAN-3-01	400	
4	財務会計論	2	B-02-MAN-2-08	300	
6	プログラミングⅡ	2	B-02-MAN-3-02	400	

両学科共通科目（その他）

配当セメ	科目名	単位	科目ナンバリング	グレード	備考
5	スポーツと経済	2	B-02-ECO-3-01	400	
5	スポーツマネジメント論	2	B-02-MAN-3-03	400	
5	スポーツ政策論	2	B-02-POS-3-01	400	
6	スポーツマーケティング論	2	B-02-HSS-3-01	400	
6	Global Understanding and Communication	4	B-02-CST-3-01	400	
2	統計学	4	B-02-STS-1-01	200	
4	ファイナンス理論	4	B-02-MOF-2-01	300	
4	アジア経済論A	2	B-02-ECP-2-01	300	
4	アジア経済論B	2	B-02-ECP-2-02	300	
4	中国経済論A	2	B-02-ECP-2-03	300	
4	中国経済論B	2	B-02-ECP-2-04	300	
5	国際金融論	4	B-02-MOF-3-01	400	
3	商法	2	B-02-CIL-2-01	300	
4	民法	2	B-02-CIL-2-02	300	
4	会社法	2	B-02-CIL-2-03	300	
5	労働法	2	B-02-SOL-3-01	400	
6	経済法	2	B-02-SOL-3-02	400	
4	中国政治論	2	B-02-INR-2-01	300	
4	アジア政治論	4	B-02-INR-2-02	300	
4	京都市の産業と産業政策	2	B-02-ECP-2-05	300	
3	上級外国語A（ドイツ）	2	—	300	
4	上級外国語B（ドイツ）	2	—	300	
3	上級外国語C（ドイツ）	2	—	300	
4	上級外国語D（ドイツ）	2	—	300	
3	上級外国語A（フランス）	2	—	300	
4	上級外国語B（フランス）	2	—	300	
3	上級外国語C（フランス）	2	—	300	

4	上級外国語D (フランス)	2	—	300	
3	上級外国語A (中国)	2	—	300	
4	上級外国語B (中国)	2	—	300	
3	上級外国語C (中国)	2	—	300	
4	上級外国語D (中国)	2	—	300	
3	上級外国語A (スペイン)	2	—	300	
4	上級外国語B (スペイン)	2	—	300	
3	上級外国語C (スペイン)	2	—	300	
4	上級外国語D (スペイン)	2	—	300	
3	上級外国語A (コリア)	2	—	300	
4	上級外国語B (コリア)	2	—	300	
3	上級外国語C (コリア)	2	—	300	
4	上級外国語D (コリア)	2	—	300	
5・6	職業指導	4	B-02-CAE-3-01	400	
1	キャリア実習・実習指導	2	B-02-CAE-1-01	—	
3・4	キャリア実習・実習指導 (大学コンソーシアム京都)	4	B-02-CAE-2-01	—	

2. 一覧表の用語・見方

2.1. 配当セメスター

配当セメスターとは、当該科目の履修が可能となる最初のセメスターのことです。例えば、配当セメスターが3セメスター（2年次の前期）の場合、1年生の時（1・2セメスター）には履修できません。

類似の用語として「開講セメスター」があります。これは、配当セメスター以降の、当該科目の履修が可能なセメスターのことです。原則として、配当セメスターと同期（前期か後期）となります。例えば、配当セメスターが3セメスター（2年次の前期）の場合、5セメスター（3年次の前期）、7セメスター（4年次の前期）が開講セメスターとなり、そこでの履修が可能です。

なお、以上は原則です。経営学部商学科の場合、例えば、後述の「履修指導科目」など例外がありますので、注意してください。

2.2. 履修指導科目

履修指導科目とは、所定の配当セメにおいて、全ての（経営学部商学科の）学生が、履修（登録）をしなければならない科目（卒業要件上は選択科目）です。

なお、経営学部商学科の場合、再履修可の履修指導科目：ベーシックアカウンティングⅠ・ベーシックマーケティングと、再履修不可の履修指導科目：左記以外の履修指導科目、の2タイプがありますので、注意してください。

2.3. グレイドナンバー

グレイドナンバーとは、カリキュラム全体のなかで、当該科目のレベルがどの位置にあるのかを数値化したものです。各科目には100・200・300・400・500の5つの数値が割り当てられており、数値が大きくなるほど、専門性が高くなっています。

商学科の基準は下表のとおりです（両学科共通科目の基準は別）。単位修得ができない科目が増え、高年次においても多くの科目を履修登録しなければならなくなった時、このグレイドナンバーが役に立つかもしれません。

100	1 or 2 セメ配当の 素地形成科目		
200	3 or 4 セメ配当の 素地形成科目	1 or 2 セメ配当の 講義型 & 実践型科目	
300		3 or 4 セメ配当の 講義型 & 実践型科目	
400		5 or 6 セメ配当の 講義型 & 実践型科目	4 ~ 5 セメ配当の 演習型科目
500		7 or 8 セメ配当の 講義型 & 実践型科目	6 ~ 8 セメ配当の 演習型科目

2.4. 専攻科目一覧表のバージョンについて

専攻科目一覧表（この表を含む『履修要項』そのもの）は、2025年度入学生用（Ver. 2025）のものであり、該当学生は卒業までこれを用います。『履修要項』は、入学年度によって異なりますので、注意してください。

また、何らかの事情で、開講セメスターが前後する（配当セメと前・後期が異なる）等、2025年度入学生用のものに修正・変更が加わる場合があります。毎年度の履修登録の際には、当該年度の時間割や『履修要項』の変更案内ページ等で、修正・変更点を確認するようにしてください。

【4】 その他履修についての注意事項

- (1) 「上級外国語 A, B, C, D」は各々8単位まで学科選択科目として卒業要件単位に算入できます。詳細は、「選択外国語科目の履修」を参照してください。
- (2) 学部共通コース以外の学生が、学部共通コース科目を履修することは原則としてできませんが、特別に許可された場合にかぎり、随意科目（卒業要件単位に算入できない）扱いとして、受講することはできます（外国語セミナーを除く）。学部共通コース科目の履修を希望する場合は、人数調整の必要があるので事前にCampus HUBへ相談に来てください。ただし、スポーツサイエンスコースの次の4科目（「スポーツマーケティング論」、「スポーツマネジメント論」、「スポーツ政策論」、「スポーツと経済」）のうち、4単位まで学科選択科目として卒業要件単位に算入できます。
- (3) 専攻科目で、それぞれの分野の卒業要件単位数を超えて修得した場合、次頁の表のとおり単位集計します。

〈商学科〉

集計分野	超過科目の扱い
学科必修科目	
学科選択科目	超過分の単位はフリーゾーンへ
フリーゾーン	

(注) 教養教育科目超過分もフリーゾーンへ単位集計されます。

【5】 その他の教育課程・教育プログラム

経営学部「データサイエンス・AI応用基礎プログラム」

経営学部では、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に準拠した教育プログラムとして、「データサイエンス・AI応用基礎プログラム」を展開しています。

詳しくは、特設ページをご確認ください。

RISE Programの単位認定

RISE Programで修得した単位は、5-weekプログラムは、「教養選択科目」として6単位まで、Semesterプログラムは、「必修語学科目」や「教養選択科目」として18単位まで認定します。RISE Programの単位認定について不明な点がある場合、Campus HUBまでお問い合わせください。学部共通コースの単位認定については、Campus HUBにお問い合わせください。

留学期間中のゼミの取り扱い

留学する時期や期間によって、ゼミの履修可否が変わります。詳しくは、ゼミ担当教員およびCampus HUBにお問い合わせください。

大学院経営学研究科入学ガイド

学部を卒業した後も、「経営学をより深く学びたい」、「より高度な研究を続けたい」という方のために経営学研究科修士課程では、以下のコースを開設しています。

本学経営学部の方を対象とした「学内推薦入試」、「給付奨学金制度」もありますので、関心のある方はCampus HUBまでお越し下さい。

龍谷大学経営学研究科HP (<https://www.biz.ryukoku.ac.jp/graduate/>)



カリキュラム紹介

【アカデミック・コース】

研究者または高度専門職業人養成のためのコースです。広い視野に立つ精深な学識を備え、かつ(1)その専攻分野における研究能力、または(2)高度な専門性を要する職業等に必要の高度な専門知識を修得することを目的とします。

修了要件：外国文献研究4単位、大学院演習ⅠA(4単位)、大学院演習ⅠB(4単位)、大学院演習ⅡA(4単位)、大学院演習ⅡB(4単位)を含む32単位以上を履修し、修了年次に修士論文もしくは課題研究を提出して合格すること。

経営学研究科の5つのポイント

1. 多様なカリキュラムで「学びたい」ニーズに応える。
2. 少人数制で、教員のきめ細かい指導が受けられる。
3. 大学院生のみが使用できる共同研究室
4. ゼミ教育補助費として図書カード(2,500円/年)、コピーカード給付(6,000円/年)
5. 学内進学者に対して給付奨学金制度(予約採用型)

学内推薦入試について(11月・2月)

本学経営学部在籍で経営学研究科に入学を希望する方のために、学内推薦入試制度があります。本入試を利用すれば、口述試問のみで受験することが可能です(税理士試験免除申請者のみ会計学を課します)。

詳しくはCampus HUBまでお越し下さい。

奨学金制度について

本学の大学院は、学内進学者に対して、給付奨学金制度があります。

〈大学院学内進学奨励給付奨学金(予約採用型)〉

本学学部から本学大学院修士課程に進学する者、または、本学大学院修士課程から本学大学院博士後期課程に進学する者を対象にした奨学金制度です。

原則として入試出願前に、「奨学金」の予約採用候補に申請し、事前の選考の結果「内定者」となることが条件です。

手続き方法：奨学金申請受付期間内に、「龍谷大学給付奨学生(大学院学内進学奨励給付奨学金(予約採用型))申請書」をCampus HUBに提出

選考基準：各選考時期直近の学期末までに修得した成績

※候補者数、奨学金申請受付期間、支給予定金額については、ポータルサイトにてお知らせします。